

パパ・タラフマラ公演

# [1992 パレード]

—UKジャパン・フェスティバル招待作品—

作・演出 ● 小池博史

AI・HALL自主企画 VOL.31

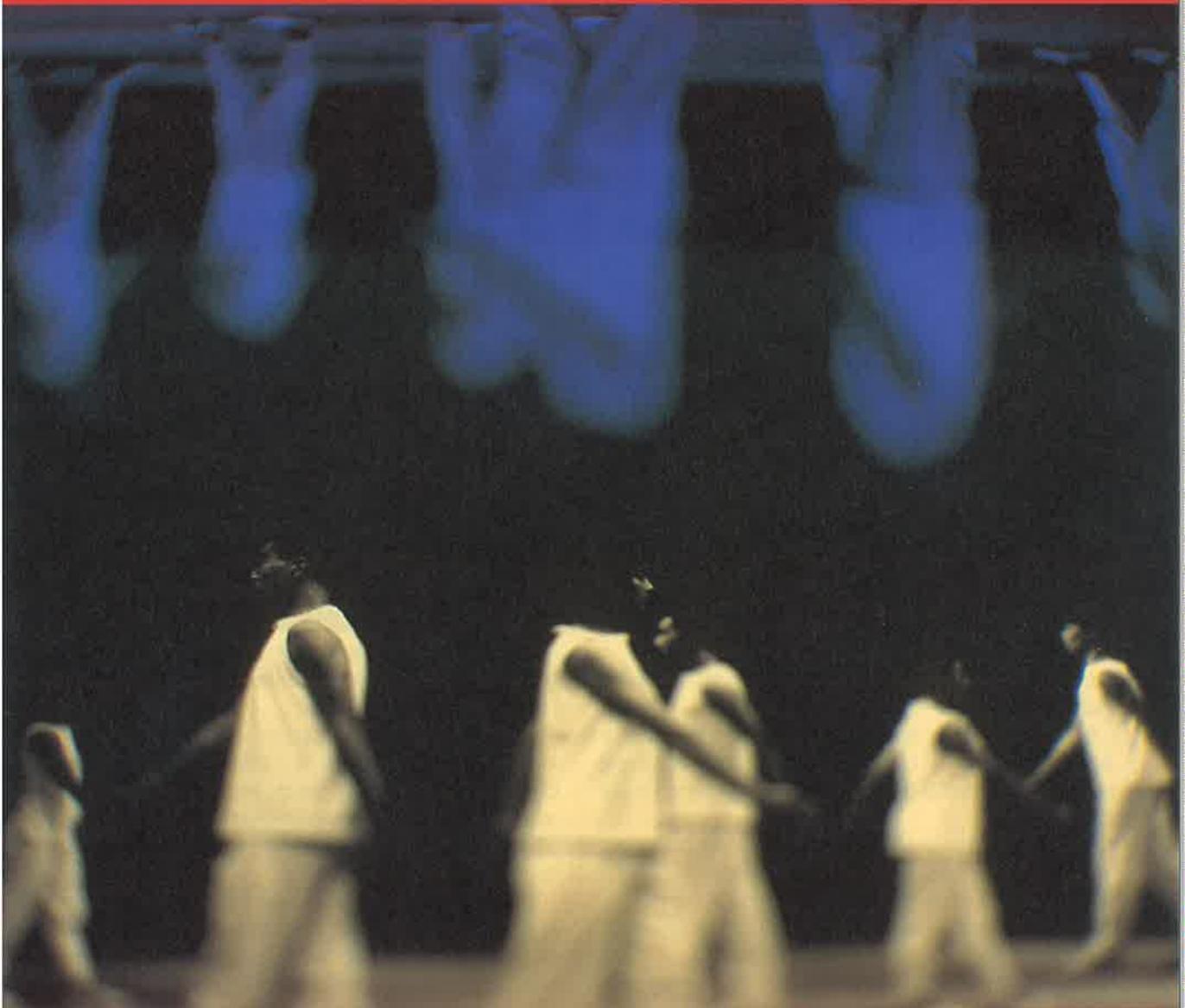


Photo Bungo SAITO Design Fumikazu SAKURABA

1992年2月21日(金)・22日(土)・23日(日)

開演時間 ● (21日)PM7:30 (22日)PM2:30 / PM7:30 (23日)PM2:30

※開場は開演の30分前 ※開演の1時間前より入場整理番号を発行いたします

会場 ● AI・HALL JR宝塚線伊丹 駅前 / 阪急伊丹駅より徒歩7分 入場料金 ● 3,500円(日時指定自由席・税込)

主催 ● 伊丹市

(チケット取扱い) チケットぴあ06-363-9999 チケットセゾン06-308-9999 AI・HALL0727-82-2000

(お問い合わせ) AI・HALL0727-82-2000 SAI 03-3385-2066

## Pappa TARAHUMARA

「パレード」とは人を始めとする生命のパレードであり、物のパレードである。そしてそれは現在を動かしている人間や産業資源、物質、政治、経済、文化の持つエネルギーの圧倒的な動きであって、時代エネルギーのパレードである。—— 小池博史

『パレード』初演から2年、『1992パレード』はめくるめく空間の詩劇へとさらなる進化を遂げた。衣装、美術、キャスト、振付けを大胆に変更した今作品は、イギリスで「ヴィジュアル・フォースト」(視覚の祝祭)とたたわれた『パレード』英国版のリメイクバージョン、もはや新作である。それはジャンル不明のアート・パフォーマンス。

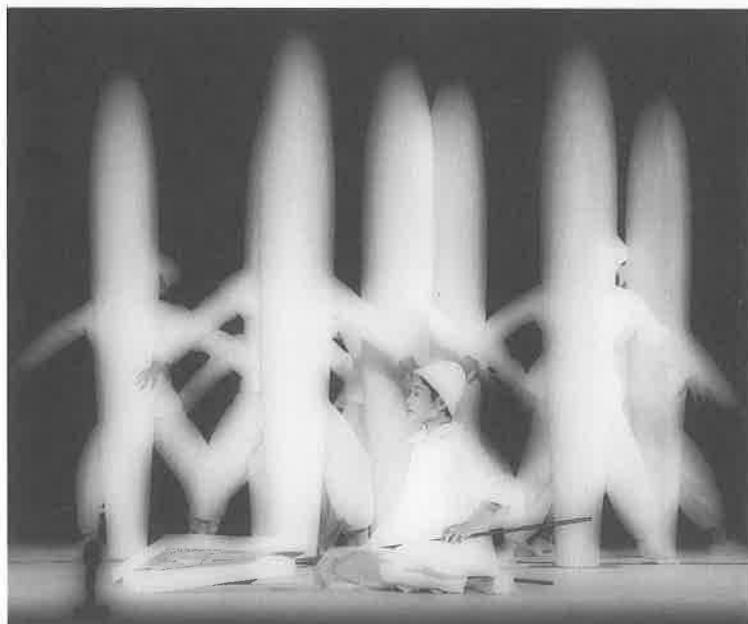


Photo Katsuji SATOH

STAFF

作・演出 小池博史  
 音楽 菅谷昌弘  
 美術 小池博史  
 オブジェデザイン 松島 誠  
 衣装 浜井弘治  
 照明 関根有紀子  
 サウンドデザイン 山本浩一  
 音響 江澤千香子  
 装置 田染友秀  
 テキスタイル 西垣聡子  
 オブジェ製作 福島直美  
 小川智子  
 小池典子  
 山田 健  
 演出助手 桜川直子  
 制作スタッフ 祖父江洋子  
 舞台監督 土居三郎  
 制作 吉井省也  
 松山聖子  
 企画・制作 SAI Inc.

CAST

出演 小川摩利子  
 清水啓司  
 松島 誠  
 吉井省也  
 ささだあきこ  
 今尾博之  
 白井さち子  
 鈴木三枝子  
 山崎広太

『パパ・タラフマラ パレード』川崎徹(CMディレクター)

野性時代より転載

人は言葉で考える。  
 だからまだ名付けられていないもの、言葉の付着していないものは、存在していても一応ないことになっている。

僕達の周囲には言葉が満ちあふれ、何かを考えたり作ろうとする時には、その中からいくつもの言葉を拾って来てそれらに付着している沢山の何かを足掛かりにしたり、組み合わせたりするのだ。

しかしそれは言葉によって言葉を表現することではない。  
 言葉はあくまで手掛り、キッカケであって、表現したいのは、存在するが未だ名付けられていないもののような気がする。

身許不明のままずっと横たわっているもの。「あるけどない」この状態に命名すること。パパ・タラフマラは言葉によって表現できることを、身体、音楽、装置によって言いかえているのだろう

か、そうではないと僕は思う。命名以前の身許不明の状態をなんとかすくい上げようとしているように見えた。

しかしそれだけではないだろう。

「物や生命について考え、危ういバランスのなかで弓なりになっている現代文明の総体を思うとき、否応なく、私のイメージの中にそれらの問題が林立する。これは、その力学とエネルギーをイメージ、視覚化したものである。」(小池博史「PARADE」)

「人間の進歩的の未来における彫刻的空間とは何か」とパパ・タラフマラは語っている。

そうなると「あるけど、ない」、つまり既に存在するが名付けられていないものだけではなく、「ないから、ない」、つまり未だ存在しないが故に名付けられていないものの存在に対しても身体、音楽、装置を使って大きな矢印を向けようとしているのだろう。

『パレード』パフォーマンス・データ

- 1989・8 利賀国際演劇フェスティバル(富山県利賀村)  
 第1回NAGOYA演劇遊戯祭(愛知県名古屋)
- 9 東京(恵比寿ファクトリー第1)
- 1990・8 サーフ'90 神奈川国際芸術祭(真鶴町道無海岸)
- 12 東京(スパイラルホール)
- 1991・10 UKジャパンフェスティバル(マンチェスター・ロンドン・ニューカッスル)

際立った舞台美術に鍛えぬかれたパフォーマンス者達。多彩な才能を持つアーティストが集まったこのグループの舞台は、単に楽しいだけではない。感性を刺激する舞台なのである。素晴らしい一夜だった。—— マンチェスター・イブニング・ニュース

パパ・タラフマラは、(名前からもわかるとおり)国際的な雰囲気を持ち、演出家小池博史は、世界に通用する確かな才能を有している。—— ザ・ジャーナル

(イギリス公演 現地新聞劇評より抜粋)